

ため池ハザードマップ

このハザードマップは、ため池の堤体が決壊しそうになるなど危険な状態になった場合、みなさんが安全に避難できるために必要な情報が記載されています。あなたが住んでいる地区のため池の位置や浸水想定区域を把握し、ため池の異常を発見した場合や町から避難情報が発令されるなど、ため池による災害の恐れがあるとわかった場合には、速やかに避難してください。

浸水想定区域は、ため池が満水状態のときに、降雨がない状況で堤体が瞬時に決壊するという条件によりシミュレーションを行っております。実際には、ため池の水位、決壊の過程、土地利用状況、決壊時の降雨等により、浸水する区域に差異があります。

◆ため池決壊の主な要因

<豪雨によるため池の被害メカニズム>

被災形態			
被災メカニズム	豪雨や洪水吐の閉塞により、貯水位が急激に上昇し、堤体を越えて流れ出すと、下流法面を侵食することによって、破壊する場合があります。また、貯水位の上昇により、堤体内の水圧も上昇し、強度が低下して破壊する場合があります。	貯留した水と降雨が堤体の中に浸透して、堤体内部の水分量が増加し、堤体の法面部の強度が低下することによって、法面部ですべりが発生し破壊する場合があります。	堤体内部が劣化して、水を遮る機能が低下すると、貯水位が上昇した時に堤体中の水圧も上昇して強度が低下し、破壊する場合があります。また堤体内に上流から下流まで貫通した水みちが発生し破壊する場合があります。
被災形態			
被災メカニズム	上流域の山林等の崩壊により発生した土石流等の流入により堤体が破壊される場合があります。		

<地震によるため池の被害メカニズム>

被災形態			
被災メカニズム	堤体の頂部などにクラック(亀裂)が発生する場合があります。堤体の上下流方向に生じるクラック(亀裂)は水みちとなることがあり、特に注意が必要。	堤体の形状をほぼ保ち、クラック(亀裂)などを伴いながら堤体が沈下する場合があります。多くは軟らかい地盤で発生している。	堤体法面の上部が沈下し、下部がはらんで変形が生じる場合があります。
被災形態			
被災メカニズム	地震動により堤体の法面にすべりが発生する場合があります。	堤体や地盤が大きく変化し、崩壊する場合があります。決壊に至ることが多く、堤体や基礎地盤の液状化によるものと考えられる。	

◆ため池が決壊した実例(農林水産省HPより抜粋)

豪雨による決壊



平成29年7月の豪雨により決壊(福岡県)

地震による決壊



平成23年3月の東日本大震災により決壊(福島県)

危険を感じたらすぐ避難しましょう

急激な降雨のように、突発的な異常気象の場合には、短時間で甚大な被害が発生する場合があります。身の危険を感じた場合は、町からの避難情報を待つことなく、安全な場所や避難所などへ自主的に避難しましょう。

危険な状況のなかでの避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えましょう。

屋外に出て指定された避難所等へ移動(水平避難)することが危険と感ずる場合や、その余裕がない場合は、自宅や隣接建物の2階以上へ避難(垂直避難)することが安全な場合もあります。

避難所まで遠回りになっても、水が流れる方向に対し直角な道を通り、すみやかに浸水想定区域の外へ出ることも検討しましょう。

ため池ハザードマップ内に避難所の記載がない場合は、浸水想定区域外の最寄りの避難所へ避難してください。

